



2025年7月10日

各位

株式会社ラクーンホールディングス
代表取締役社長 小方 功
(コード番号：3031 東証プライム)
問い合わせ先：
取締役財務担当副社長 今野 智
電話：03-5652-1711

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」 および「株主・投資家との対話の実施状況」について

当社は、2025年7月10日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、当社の現状を分析し対応方針について決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

I 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について

1. 現状の分析

当社は、ROEを主要指標の一つとしております。高い限界利益率を背景に、成長への投資を行いつつ営業利益率の向上を目指すとともに、積極的な株主還元を行うことでROEの向上を推進する方針としております。

株主資本コストは毎年変動していますが平均5%程度と認識しております。これに対し、ROEは平常時の水準はおおむね10%台半ばから後半を推移しております。2024年4月期のROEは、大幅な広告投資を実施した影響で減益となり、6.5%に低下しましたが、2025年4月期は利益面がV字回復する目標を達成したことで18.2%と株主資本コストを大幅に上回る水準に大きく改善しました。また、PBRについては、自社株買いを実施し資本効率の改善に努めたこと及び株価の一定の回復により2025年4月期は3.8倍となりました。

(指標推移)

	2021年4月期	2022年4月期	2023年4月期	2024年4月期	2025年4月期
売上高(百万円)	4,364	4,789	5,320	5,808	6,098
営業利益(百万円)	1,196	1,126	1,193	566	1,254
営業利益率	27.4%	23.5%	22.4%	9.8%	20.6%
当期純利益(百万円)	800	354	668	325	836
自己資本(百万円)	5,310	5,289	5,315	4,778	4,419
ROE	17.2%	6.7%	12.6%	6.5%	18.2%
PBR	13.4倍	5.9倍	3.0倍	3.0倍	3.8倍
1株当たり純資産(円)	239.23	238.12	240.65	223.24	217.42
配当性向	46.2%	125.2%	59.5%	92.4%	55.5%

2. 対応方針

①資本収益性の向上

「中期経営計画（2026年4月～2028年4月）」を2025年6月12日に公表いたしました。中期経営計画最終年度のROEは25%を目標としております。また、中期経営計画ではすべての事業の売上高成長をさせながら、営業利益率を25%に引き上げることを目指しております。中期経営計画を達成することで収益力の強化とROEの向上を図ってまいります。

②株主還元

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要課題として認識しており、事業の成長投資を目的とした資金需要と経営基盤の強化のための内部留保の充実等を勘案しながら、連結配当性向45～50%を目途に実施することを基本方針としております。なお、特別損益が発生することが見込まれる場合には、当該、特別損益を除外して配当性向を算定しております。

なお、自己株式取得については、株価水準、資金の状況、市場環境などを総合的に勘案した上で積極的に実施してまいります。

③IR活動の推進

当社では積極的な情報開示及び、株主・投資家との対話が企業価値を向上する上で重要であると考えております。そのため、コーポレートサイト上に掲載するIR情報の充実化を図るとともに適時開示基準に該当しない場合でも株主・投資家にとって有用である情報については積極的に任意開示を行ってまいります。また、国内外を問わず、株主・投資家が当社の情報を平等に入手できるよう英文開示資料や英語吹き替え版の動画など、日本語版と英語版で遜色ないコンテンツの充実化に努めてまいります。

II 「株主・投資家との対話の実施状況」について

2025年4月期の株主・投資家との対話の状況は以下の通りです。

1. 2025年4月期 実施内容

活動内容	回数
株主総会	1回
決算説明会	4回
個別面談	107回（国内 68%、海外 32%）
※出席者（社）数に関わらず、開催回数をカウント	

2. 対話の主な対応者

代表取締役社長、取締役財務担当副社長、IRマネージャー

3. 対話の主なテーマや関心事項

特に気づきが得られた対話や説明により理解を得られた対話の事例

- ・次期中期経営計画の方向性について
- ・キャッシュアロケーションの考え方
- ・プロモーションコスト（広告投資）の見通しについて
- ・物価上昇がサービスに与える影響（GMV、客単価、取扱高など）
- ・株主還元（自社株買い・株主優待の導入の背景）について
- ・企業のDX化の浸透による競合環境の変化について
- ・米国関税及び為替の影響について
- ・家賃保証事業を売却した理由について
- ・EC事業の客単価の推移について
- ・売上総利益率向上の背景について

- ・デフォルト率（売上原価率）の今後の見通しについて
- ・業績は着実に成長している一方で株価水準が下がっていることについての会社の認識

※決算説明会での質疑応答は当社ホームページの以下のページ Q&A に開示しております
https://www.raccoon.ne.jp/company/investor/financial_info.html

4. 経営陣や取締役会に対するフィードバックの実施状況

対話による寄せられた意見については、取締役財務担当副社長より取締役会へ適宜報告を実施しております。現場に近い意見については、各種面談実施後に IR マネージャーより事業部門の責任者等に共有しております。

以 上